

發句萬題集夏愍目錄

夏之上

花葵	青嵐	鮮	夏籠	佛生會	祭	單物	拾	四月	初丁
十六丁	十二丁	九丁						卯月	
玉卷葛	牡丹	松魚	夏書	灌佛	大矢穀	青簾	白重		五丁
					七丁			更衣	二丁
紫羅傘	芍藥	麥秋	夏斲	花御堂	施米	筑廣祭	夏衣		六丁
	十一丁	十丁		八丁				綿拔	二丁
玉卷芭蕉	燕子花	麥	古茶	練供養	千團子	葵祭	夏羽織		
	十五丁	十二丁							

夏目錄

郭公	蔘	藪椿	夏木立	葉柳	新樹	余花	繡毬花	茶挽草	風車	罌粟
			共丁	共五丁		共二丁				十七丁
鶯入音	新茶	筍	水下閣	夏柳	夕葉	若葉	梭擱花	卯花	茨花	著莪
共二丁										十八丁
老黃鳥	葉撰	落	常馨木落葉	實櫻	藤若葉	若楓	花柚	桐花	白丁花	苣花
共三丁						共丁		共丁		
閑子鳥	風呂	茄子	竹落葉	茂櫻	葉櫻	青葉	橘	柿花	美人草	豆花
		共九丁	共八丁					共二丁		十九丁

竹醉日	藥日	蓬背	菖蒲湯	五月	水馬	納	枝	鵝
				四丁				共四丁
虎雨	幟	粽	菖蒲刀	夏之中	蚊柱	蛙子	蛙子	葭部
四丁					共八丁			部葦鳥
花菖蒲	飾胃	筮粽	菖蒲打	菖蒲	蚊遣	蚰蜒	毛虫	部葦鳥
	四丁	四丁					共六丁	
石菖蒲	加茂競馬	柏餅	印地打	菖蒲酒	蚊帖	蟻	蝸牛	編蝠
				四丁	共九丁	共七丁		共五丁

藻花	萍	沢瀉	河骨
花旦見	真菰薊	藻薊舟	蓮若葉
蓮浮葉	蓮	苔花	夏菊
百合	紅藍花	合歡花	紫陽花
推花	栗花	梅檀花	山梔子
南天花	花柘榴	花橘	十藥花
瞿麥	常夏	石竹	懈釣草
酢漿草	萍若葉	葛若葉	苘草
一ッ葉	覆盆子	桑實	藤實
茶挽草	青梅	檮	若竹
今年竹	竹皮散	瓜花	天瓜花

早松茸	早苗	田植	田植哥
早乙女	流苗	初蟬	蟬
空蟬	蟬時雨	夏蝶	蠅
蠅虎	灯取虫	夏虫	螢
水鳥巢	水鷄	水札	羽拔鳥
練雲雀	鶉川	鶉舟	鶉匠
藻打	鮎	翡翠	鴨子
夏鹿	鹿子	通鴨	照射
火串	干鰯	有無日	入梅
梅雨晴	五月空	五月曇	五月雲
五月閣	五月雨	五月晴	短夜

夏目録

三

五十五

明易夜

夏夜

全字

夏月

帷子

全字

過花

薄羽織

晒布

夏之下

六月

全字

水無月

冰室

冰餅

全字

祇園會

嘉定

不二詣

土用

土用干

全字

虫干

夏日

暑

全字

日盛

全字

炎天

夕立

夏雨

全字

雨乞

雲峯

風薰

扇

全字

團扇

汗

汗拭

掛香

全字

日傘

簾

竹婦人

抱籠

竹奴

籠枕

涼臺

座頭納涼

涼

一夜酒

打水

全字

清水

晒井

全字

水飯

水粉

全字

冷水

冷汁

梅干

漆取

全字

枇杷

干飯

楊梅

林檎

全字

百日紅

李

凌霄花

蘭花

全字

櫻麻

蓴菜

青芒

釣鐘草

全字

鷺草

忍冬

風蘭

紫蘇

全字

青鬼灯

萱草

麻

綿花

全字

夏薺

鼓子花

夕顏

青瓢

全字

瓜

胡瓜

新麥

全字

田草取

川狩

小鮒

夏目録

四

晚夏	夏川	夏雲	川社	夏神樂	鯖釣
	九平	夏山	月涼	御夜	沖鱸
	夏海	志た山	露涼	茅輪	晝寢
	夏氷				夏瘦
					形代
					夏坐敷
					夏野
					秋近

發句萬題集夏之上

冬至庵庚年 輯
八雲東溟 校合

四月

おのひあそび本多ね四月の梅より
 白雪のつりば四月のよーし山
 朝起もあそぶねと井の四月の歌
 山中見や山乃根造る四月の歌
 山を結着くひと出野四月の歌
 旅人のいひ人あつる四月の歌
 さく波のあそびえと暮る四月の歌

生色派 磯外 成美 岳格 卓池 年波 踏山

夏

草山とひるの月とて四月の那
人あせし馬の汗とて四月の那
鳥かたむね四月の山の明とて
此頃の秋意とて五月の那
山嶺や卯月とて五月の那
秋風の意とて五月の那
蒼空とて五月の那
為月の本とて五月の那
古やと生魚の事とて五月の那
卯月とて五月の那
洞嶋の友とて五月の那

水谷
素折
鶴鶴
尚白
残芷
野經
梅室
白起
里松
寒松
平山

更衣

月川の汐と卯月のまろり
つらねてつらねておひぬ衣
陸奥のつらねてつらねて更衣
西のよ娘とつらねてつらねて
衣のへそとつらねてつらねて
衣のへそとつらねてつらねて
衣のへそとつらねてつらねて
衣のへそとつらねてつらねて
衣のへそとつらねてつらねて
酒香のひそとつらねてつらねて
けつとつらねてつらねて

貞祇
ちてん
辰重
支考
乙由
辰蘭
破
仁里
暮太
咲臺
士朗

をのこ子の忌言えりけり後れ
 日福りの旅治つけと後う那
 程きそ別よふらざる扇うれ
 窓の暮るこもりと忌物う後う那
 後うらくとと忌言えりけり後う那
 二十月の入まきとれりけり後
 きりあぬきけりけり後う那
 戸口うらと忌言えりけり後う那
 旅人う一日きと忌言えりけり後
 あらうと忌言えりけり後う那
 後うと忌言えりけり後う那

住語 招軒
住語 獨磴
住語 井井井
住語 佳味
住語 梅室

貞祇
 弁之
 禾月
 槐堂
 鶴年
 山高
 招軒
 獨磴
 井井井
 佳味
 梅室

行かうと人としりけり後う那
 忌言えりけり後う那
 店先とうらと忌言えりけり後う那
 たいみあを忌言えりけり後う那
 後うと忌言えりけり後う那
 なうとらと忌言えりけり後う那
 後うと忌言えりけり後う那
 楊弓とあうらと忌言えりけり後
 柳うと忌言えりけり後う那
 宰領のまきと忌言えりけり後う那
 子の夫々の伸と忌言えり後う那

住語 浮羅
住語 護物
住語 永保
住語 悠々
住語 枕台
住語 春慎

一
 欽
 其
 淡
 浮
 護
 永
 悠
 枕
 春

白重 祝はる侍うらうらう 白重

白重うらう侍中うらうのそん

白重一局くく 教や明ん

暮の照をま 泣けりる衣

袴まきくあきうきう 五衣

万遍くく是て扇うけ 夏羽織

舞うあはれうらうらう 夏羽織

うやまの夕敷くさぬ 草物

五位六位をまじりて 草簾

あきこれかきく揚ぐ 祝ごと

うらうらういふうらう 草簾

草重

草右

浪花

ノ旦

慈光

黄山

一映

三侍人

草方

百明

兔七

今うらうらう侍中侍中 草簾

客を誰乳母く 草簾

あきうらうらう 草簾

着つらうらう 草簾

茶のまじりて 草簾

あきこれかきく 草簾

極小やと 草簾

坐法辨 草簾

かのかく 草簾

家無く 草簾

あきうらうらう 草簾

其 草

尚 白

若 人

桂 哉

あき 女

水 物

うら 々

あき 々

立 格

船 頂

其 父 丸

夏

六

届状をせんくひねりきり
乙也

筑下祭 古鍋といふれく易き祭り
小圓

葵祭 碓氷より葵の祭り
去来

祭 高階を舞うる祭りのまじひ
其角

平みねを祭る祭りの白ひの
古庭

三歩く先をせんくひねり
新去

大矢数 移りけりて祭りのまじひ
左記

佛生舎 入りて祭りの庭の砂場
南枝

子園子 かしきりて祭りの庭の砂場
一映

佛生舎 寺の祭りの庭の砂場
乙由

佛生舎 寺の祭りの庭の砂場
丁知

漢俳

卯のちびせんとくもれ佛生舎
少壯ももくちとあけり佛生舎
胎のちえく産ましくち佛生舎
書所らこころとて佛生舎
漢俳や船もなまると珠のち
漢俳や子別るり兒
漢俳やまや入おの大佛
志願うけし佛こころとて
天寒うく甘き佛の煮湯
方して佛の生れゆひけり
漢俳やついでて居る妻の中

玉園
弄之
米甫
波同
まを以
其角
百里
深更
完素
曰人
小柄

花法堂

漢俳や佛をあらはれし
漢俳と用く免くもる田舎
いづくの軒のまやと法堂
君う代や四る八十花法堂
志法堂人のうくち免う那
四言うおれまけり花法堂
川舟のうくくもるや法堂
花法堂は一むれま手おろ子
地味の上いりうくもる法堂
子を捨くもる志のまろりおろ
あて〜ま物の所りや花法堂

在
者
乙
今
一
曲
荒
芥
不
若
和
我

練供養新うらやまう島なる小島うら
夏 籠 友うらやまう島なる小島うら

其村
白旗

夏 書 月とわつとくわとつとる事たる出川
作の目まらも信りやうるまうり

一映
其村

似城の友出やきやうる念佛
新飯うらやまう島なる小島うら

其角
祖々

友出まらまらうらうらうらうら
友出まらまらうらうらうら

其角
祖々

夏 別 友出まらまらうらうらうら
つき合とる友出の中いまうら

重厚
文燕

古 茶 古茶まらまらうらうらうら
明礼と紅舞や襟うらうら

素々
文燕

服まらまらうらうらうらうら
新梅やなれぬとらうらうら

本因
字因

新 梅 新梅やなれぬとらうらうら
新梅やなれぬとらうらうら

結身
東葉

新 葉 新葉まらまらうらうらうら
新葉まらまらうらうらうら

乙二
篤老

松 魚 新葉まらまらうらうらうら
新葉まらまらうらうらうら

乙二
篤老

大勢の平よ一本松魚うら
月うらや松魚の背まらうら

百明
嵐雪

船舟の福と松魚の光るるのれ
 初松魚と雲と雲と人の暮れ
 雲の次つくと松や初松魚
 初つるを白の淋とわきれけり
 一里とくは果報なりとら松魚
 とけり場もつぬ織のむらうを
 麦秋 行駒の麦よりなむやうり
 家のむね麦や穂を吹く夕の乳
 麦うみや肉おまがき志安の里
 泡盛まゝ子とんをけり麦の秋
 麦秋やあふんといふ一人あ

恋
 子格
 乃
 北
 里
 山
 文
 重
 浪
 百

惚拂のま度つとら麦の秋
 夕の世とつとら麦の秋
 子をつれとる人も麦の秋
 麦秋や直腐のさけらるの病
 さとらとらとらとら麦の秋
 宮吉もひらつとら麦の秋
 馬とらとらとらとら麦の秋
 不吉とらとらとら麦の秋
 舟花のふあんとら麦の秋
 麦花ぬんとら麦の秋

本
 尚
 一
 蓬
 波
 幻
 由
 望
 何
 山

麦秋やまへ梅より角力在
 むらあまや 鳥宮殿りの子泊
 あは此のむらあまの秋
 うらまへをさるるに月や麦の秋
 麦秋や 尾谷のわらわらと移遷し
 あけおまの種とをむき種
 折るる麦穂は や作より
 秋より のそあや 田麦より
 背戸の麦のうらまへ一日あつた
 希くむら麦のわらや 向ひ國
 穂はあれハ一思り秋田麦は
 乙 二
 成 美
 之 是
 呂 川
 一 映
 卷 堂
 士 朗
 是 是
 真 祇
 通 甫
 山 外
 山 雄

何れ世々一山の穂みの麦くさけ
 一帯あわや 鳥羽田のあま〜麦
 麦の穂は名のさあつる居れ
 鳥宮殿りや 鳥神幣のふり〜と
 鳥あ〜し 空をともや 苗より
 即〜らあつたをむらあま〜し
 鳥あ〜し 吹や 中流の麦は〜
 注連縄も ちよ〜と 中 鳥あ〜し
 鳥あ〜し 鳥甲と 外 鳥あ〜し
 内海も 海より ちあけ〜 鳥あ〜し
 石川や 流も ちよ〜と 鳥あ〜し
 夏
 三

芍薬

一季おろく人驚く牡丹の那
随まろけ葉をまろ牡丹が
くれろろけうけろ牡丹のむけり
連ろろあろ大登ろ牡丹のれ
鏡のあろろを祝く牡丹のれ
憐照ろろ一ひろ牡丹のれ
芍薬や路のまろ八葉のれ
芍薬ろろ十葉の茂ろろ那
芍薬や後産ろろろの井戸
五六代芍薬ろろ山家の那
芍薬や鏡の路ろろけ家

燕子花

杜若のろろや竹のろの影
のまろろろろろろろろろ
鈴のの葉のろろろろ杜若
やまろろろろろろ杜若
ろの鈴の鈴のり由や杜若
田舎ろろろろろろろろ
杜若の目を掛ろろろろり
有るろろろろろろろろろ
かきろろろろろろろろろ
汐風のろろろろろろろろ
水ろろろろろろろろ燕子花

梅室
梅通
護物
牙月
風也
鶴年
交考
尚白
折雅
士朗
道亮

其角
玄春
岩重
文學
江月
鳥翁
山外
永年
梅通
杜若

菘子花ひくくや松乃ひと平
初花と華てくやや杜若
洞室くやのさあぬやうきく
流濁るあ際くやや松乃
菘のゆけくやや杜若
送さくくや通さくや菘子花
落さくくや葉のゆけり杜若
たすぬひみくくや杜若
挽さくく一花さくや杜若
うれと菘子花二度さく杜若
一くく今年と切さく菘子花

菘花
吟
由
喜
素
其
槐
九
獨
之
岱
年

菘のゆけくや杜若
芝原や田さくく杜若
切さくくや杜若
池甲の葉さくく杜若
菘子のさくく杜若
切さくく杜若
杜若ははたけさくく
浮山子園のさくく
菘子花さくく杜若
菘のゆけくや杜若

梅
菘
水
白
子
悠
一
木
自
淡
送

花 葵

一やふく切てくは 是れを 葵子也
徒名のあけくは 修や 杜名
急くて 葵子の ありし 葵子也
那きよくは 葵子の ありし 葵子也
葵子よー 自の 葵子 ありし 葵子也
葵子よー 自の 葵子 ありし 葵子也
居海屋の 葵子の ありし 葵子也
玉巻葛 葛の 葵子の ありし 葵子也
紫羅傘 一八や 葵子の ありし 葵子也
一八や 葵子の ありし 葵子也
玉巻芭蕉 日の 葵子の ありし 葵子也

梅 通
完 徳
文 磨
岩 泉
仙 化
純 可
幻 芝
暁 臺
三 岳
小 義

眼 粟

舟名の一 葵子の ありし 葵子也
いんちの 葵子の ありし 葵子也
押金ぬ 葵子の ありし 葵子也
陸屋の 葵子の ありし 葵子也
散陸の 葵子の ありし 葵子也
まこちの 葵子の ありし 葵子也
頂きの 葵子の ありし 葵子也
松の 葵子の ありし 葵子也
たらの 葵子の ありし 葵子也
白雲の 葵子の ありし 葵子也

去 来
支 考
舍 經
智 月
真 角
系 更
暁 臺
士 朗
葵 英
完 葵

うらうらむ家ありしうらやけのくれ
月さそ淋しく甘うぬけしつを
あけし戸のあつらうらやけのくれ
障中や燈籠の灯けしつを
嘆かすしつちやけのくれ
風乾やけしつちやけのくれ
とらくとほやちりくくのも
夜あまをさけしつちのくれ
ちる手際んせよほつちのくれ
たまりえいふ言たさあけのくれ
あけしつちやけしつちのくれ

貞祇
多よあ
金燕
氷狐
幻芝
子格
抱倚
梅室
老白
江云
皷雪

けしつちやけしつちのくれ
切らちもあちりなりけしつちのくれ
けしつちやけしつちのくれ
けしつちやけしつちのくれ
日と夕しつちやけしつちのくれ
何よりさしつちやけしつちのくれ
初あち女さしつちやけしつちのくれ
けしつちやけしつちのくれ
々しつちやけしつちのくれ
白けしつちやけしつちのくれ
散つしつちやけしつちのくれ

東之
未柳
蘿塵
萃堂
心阿
美非
茵和
清良
とよあ
若風
素樸

美人草 蝶より花をよむ美人草
蒼朮草 くらくとも卯くらねや蒼朮草
卯花 卯のまねやうらね柳の及ぶ

卯の花の維多利亞かん園乃門
卯の花と蒼毛の駒の相明らぬ
卯のまねやうらねのほろの如き
卯のまねやうらねのまねを
卯の花と隣歩りやぬれ嵐
卯のまねといのうらねを
卯のまねや月のまねを
卯のまねや星のまねを

一映 雨考 七世 志来 汗六 其角 於此 之是 交考 聖地 貞底

卯のまねやうらねのまねを
卯の花のまねぬ家より
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを
卯のまねやうらねのまねを

蒼朮 由換 子松 素樸 二丘 伽松 月葉 美人 夷剛 川如

桐花

卯のむや井のむやむやむや
卯のむや井の出代るむやむや
換振る卯のむやむやのりわ
卯の花乃のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ

洗我
梅令
一具
卓池
士朗
外
外
二
梅宝
保吉
洗我

材花

卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ
卯のむや井のむやむやのりわ

梅井
素樸
慈光
竹筵
粘粥
奇潤
大老
南枝
清丸
其翠
三園

縹緗花
核桐花

夏

十一

花 柚

掃いとのなほひりわたり桜桐花
柚のちよふ芳志のちん料理のち
行家とくわんち柚とちよひとち
柚のちよや庭へちりさき序あり
盃に碁もちしえんちこれ柚これ
今及ししひちちけちこれ柚これ
柚のちこれのち中ちよちや碁四
葉うくち中ち葉ちちち柚ちち
いち枝ち葉ちいしちちち柚これ
ち柚ちちちちちちちのち蓋ちち
垣越しち柚のちちちちちちち
柚のちちちちちちちち柚これ

庭江
ち世紙
言ち
彫棠
舟外
丁心
九高
蘿唐
葵ち
白権
雲山

余 花

若 葉

秋のちちちちちちち柚これ
回子梅の余ちちちちち柚これ
日ち山ち入りけち余ちちちち
若葉ちちちちちちちちち
とちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちち
夕ちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちち
樹のちちちちちちちちち
舟の碁ちちちちちちちち

玉枝
午心
若葉
慈光
嵐雪
其角
定良
荊口
惟然
哉人
三巴

夏

廿二

其のひらきも又くせりくも美草や
旅人の葉子おれと出まらぬ草れ
鶴下まきるのらひもも美草のね
おけしき一り多むの美草れ
けりやや美草もあらくせのあ
洲と今年出来と実生もも美草れ
縄よりをあらくせんけり美草れ
梅露屋の見ゆえもく美草が
も美草く又一倍の日永く那
桑のあも美草と月の日永く那
振つぬ手掛ぬ美草のけ

風也
市之
多上女
塚元
由控
抱保
梅室
住年
平波
意光

むらり第のちやわ美草の
そよくと美草の風やおの成
美草けけけけけけけけけけ
能くおれ美草かきく美草れ
耳えく控入おのわら美草那
おの月さふくとおもく美草れ
美草しき美草のちけおのけ
街道をありの勢りし美草れ
凍るれく美草をかきく美草れ
降せくく美草のわら美草れ
戸の美草を冷やりとけく美草れ

磯山
蘭秀
梅枝
井梧
手梧
住年
我老
麻交
折承
而后
宗嗣

夏

十三

里ののけりき勢りぬ左木立
 木下園 下善や地虫かしの標のあり
 牛乳服の光る山路や木下園
 下園や居風呂も焚物と噂
 木下園とくま里正き居たり危
 ありききもちうや木下善
 隣への往きまうぬ木下園
 具うくくめくきや木下園
 常盤木のはな葉えよむ後の銀
 ちうくくま里のまけり松葉丸

燈籠
 嵐雪
 白尾
 多よ
 松海
 萩
 徳
 史子
 文綴
 侍所

竹葉葉 映るまよきくく竹の葉葉丸丸
 向風もかいたま竹の葉葉丸丸
 大竹うけりつまけり梅丸丸
 竹の子やま置置まき岩我の坊
 井の子や飯飯の床のひくくも
 名跡とくこのひく竹の子葉丸丸
 筆のひひや梅丸丸丸丸丸
 筆や蓮よ今まきも好丸丸丸
 竹の子や前跡丸丸丸丸丸丸
 竹子とあき丹穂や丸丸丸丸丸

獲物
 一映
 湯丸
 嵐雪
 鬼貫
 去来
 卓池
 丁丸
 護物
 波田
 梅室

新茶

園書もあきぬ涼すの新茶が

支考

風よ春のついでに吹き新茶の

園女

残るる也新茶の節一忘きり

一映

茶探

松の戸をうけたりと茶探は

茶島

大鼓をいれをうけ茶探は

史部

風呂

夏風呂や涼あふとんたれり

宗園

風呂の茶のなる目よりし細茶

重房

郭公

おとさくらを考懐くやあの上

其角

おとさくら一二の懐のねはり

其角

以懐を月の秋をむむとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

おとさくらたけおとさくらとんた

其角

許六

惟然

於風

素堂

傘下

尚白

鬼貫

宗鑑

文華

於風

わさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
おのひまむあひらあしし
わさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ

卯七
智月
北枝
出若
守武
為良
利牛
言水
午代
葵右
也右

あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ
あさきんまきくまぬ宵のそ

雨更
咲臺
凡莖
士朗
多上女
一長
月居
吟露
卓池
西月
通浦

枝 蛙

聖なる如くや白ひの如く居るも
 蟪蛄や月のあつらとまきし人
 加へりよきえとらしし油賣
 蟪蛄や百日の原産 遠く
 加へりの新大冢や鉄以焼
 風よけの本をあらう 枝蛙
 木の柄をまきし 枝蛙
 空をらふ冷日まきし 枝蛙
 沼にまきし 枝蛙
 葉をまきし 枝蛙
 摘りよの葉をまきし 枝蛙

善村
 曉臺
 北枝
 一具
 百明
 保吉
 英父丸
 美地
 下世氏
 涼邸
 一具

蛙 黽

毛虫

人足もつて居る毛虫
 毛虫は
 毛虫は

休左

蟪蛄

蟪蛄角よりわけよ 漢唐の石
 枇杷の葉をとれ 南枝の蟪蛄
 志々 露や角より目とら 蟪蛄
 我むし 蟪蛄
 白くわや推の葉 蟪蛄
 世の中を換く 蟪蛄
 蟪蛄
 蟪蛄

南枝
 東漢
 其角
 其雪
 鬼賢
 古雲
 二
 助宣
 梅令

売らぬも無常とあるや 船中
 のせくきく 橋上居る人 船中
 晴口や 暮ふもつり 船中
 雨降る 晴ぬも ちより 柳の青
 子子や 浪も 水の けしき
 子子や 柳の けしき けしき
 子子や 降るも 雨 降るも
 子子や 暮るも 暮るも 暮るも
 君志し み馬の 尿 尿 尿
 際 ありや 君の 出さし 身の 尿
 切れぬも 多し 誠 誠 誠

雲

才磨
 杜尚
 素行
 物人
 洗我
 風朗
 丁智
 百明
 奇村
 南枝
 福碓

飛蟻

飛蟻の ありや 君の 出さし 身の 尿
 切れぬも 多し 誠 誠 誠
 子子や 暮るも 暮るも 暮るも
 子子や 降るも 雨 降るも
 子子や 柳の けしき けしき
 子子や 浪も 水の けしき
 雨降る 晴ぬも ちより 柳の青
 晴口や 暮ふもつり 船中
 のせくきく 橋上居る人 船中
 売らぬも無常とあるや 船中

水馬

夕立のちよを抄ゆや馬

喜谷

蛭

抄下をうの送まゆや馬

枝玉

蚰蜒

草紙の蛭の血をけり蛭の口

為有

蟻

存ちるをやけり蛭をくけり

浪都

蚊

何れをくけりまゆやや蚰蜒

南波

這出せよとみおろすの蟻の考

慈光

抄りかきや水馬のくけりまゆ

大谷

船出くまゆやまゆ白や蟻

出翠

わら家々蚊の少きを地まけ

菩本

蚊のつづきまゆやまゆのくけり

てん

山里の蚊をまゆやまゆけり

精雅

一筆あそびまゆや蚊の考

多女

空の蚊や蚊のくけりまゆ

梅室

屋の蚊や蚊のくけりまゆ

小松

蚊柱

行けりまゆやまゆまゆ蚊を

松竹

蚊の考まゆやまゆまゆ蚊が

平波

通る蚊の又まゆまゆ蚊をけり

草丸

つづきまゆまゆまゆ蚊が

是非

夏

三

致卷

故程やぬけ知るんき元のみ
旅病しきまわぬき子の故程い
故程と申や芥の女の石を
かやうとや懈病のうと老一人
故より程故きうの多きを
月影を只言のちる故程うれ
居まれば又風替る故程うれ
故程禁地まやまの少候掛
やわけのまもまき人故程うれ
川風のまもまといふ故程うれ
掛先の地のかんや故程うれ
代おりの座敷をまき故程うれ

淇石
志来
嵐雪
其角
抱儀
梅室
多喜
永保
函派
白起
風調

致帖

居洲深く寒うと好む故程うれ
三月のふもも結ぬ故程うれ
昔伝し焼り戸口の故程うれ
一つうみ慰むおとの故程うれ
本傳うら故程うれ
け先このえれ入けり懈のうち
手枕や月を布目の懈のうち
物そ免く懈西白き月敷うれ
涼さの外うとんえて懈の中

籬房
左不
鳥津
大費
船村
蒼帆
卓文
文學
智月
言ぬ
永年

以燈も机も入敷故帳の
 附出さるる異く一和室の
 中一の時物も又となく故帳が
 猶立や子ら掃のさし杖故屋
 屋の故屋をさしはよと物せけり
 まとも客ともつらぬ附の中
 の燈と客居越する故帳を
 是えとせぬるる一室帳の月

淡吉
 鶴駕
 一有
 一具
 梅令
 手格
 欽哉
 梅室

發句萬題集夏之中

冬至庵庚年 輯
 八雲東溟 校合

五月 初も身を虫け煮る五月の
 麦わらに上よむ里の五月の那
 夕雨の拍さつけし五月の那
 り先と秋の程とあれ五月の
 名もと世の客も五月の那
 拍きし日と雨と五月の那
 事月 目も初も時と時事月之

八兆
 渭川
 士朗
 三津人
 外六
 本年
 七世

葛蒲打 似とくしつしとせぬやちや打
印地打 子と似とる子然つともや印地打

年よき人の中や印地打
おりのくぶれ印地乃て石

蓮 清 浮蓮のさうしおと蓮を清とけり
粒 粒 粒 小片もともさむ粒 粒

ぬも外一口よまかり 粒五把
うきたうと粒とくけり 府中

山 菅の後の目をうねちまに粒
巻身て似とくちま粒のちあれ

粒とくまいつけくちま粒あ
ちま粒ゆまもくちま粒あ

今粒下と粒とくけりぬちま粒あ
湯毒のちまちま粒あ

梓さうしつりや小舟のちま粒
世とけりしつりや小舟のちま粒

雨よりしつりや小舟のちま粒
粒とくまいつけくちま粒あ

粒とくまいつけくちま粒あ
粒とくまいつけくちま粒あ

粒とくまいつけくちま粒あ
粒とくまいつけくちま粒あ

一 映

仙 化

溪 石

嵐 雪

蒼 札

七 尺

嵐 雪

路 通

加 一

松 下

二 晶

深 吉

小 柯

山 菊

春 菜

柳 空

石 橋

若 之

龜 歌

松 海

茶 蓋

乙 二

柏餅 竹翁まらうやまをむね危柏餅
抱琴 南枝

薬日 祈きけり一筆別そ筆陣
一映

戯 柏餅まきけりうき世の戯り
其角

子孫若の分別るゆへ戯り那
交考

あお時々風えまゆる戯り那
大抵

雨き然りまらうくのくおわりの
我竟

盡けききし執さんゆへ戯り那
六輝

男とけまらう居る子やうら戯
六輝

師胃 常世か古まもま胃り那
山外

草の戸よアアアかき胃り那
其角

加茂競馬 競り増し今身のいそみけり那
山川

人の世まらうくしけり人馬
其角

とく人る處よとおもひ鳥まあり
梅室

わら井り人ら處よれまらう
多士

あふきまらう鳴の止ぬやうへ
士朗

こころの息よまらう競り那
士朗

水珠日 降らまらう水極る日と雲と笠
士朗

白きや竹と餅日の人あめ

其角

水柱や盆のせくる茶やん

理坡

水柱やいそ堂新茶よん

以之

干物の若もせんくけ柱

西湖

水柱くおまらとん今新茶

多よあ

水柱くお母け也あ一の茶

南枝

水柱一根をゆきとやまけり

史子

柱くおけりかけりおら

苦窓

水柱く日く雨降る戸の扉

永光

水柱く目をやての柱けり

亭了

水柱くおれおれおれおれ

古老

今柱くおれおれおれおれ

葛古

虎 雨

虎の袖そとあやら降る候

鬼貫

降るの中うき名や虎雨

一考

淋しきや虎の泪雨

五芳

八音漸や泣さぬまの虎雨

其角

花 菖蒲

おあやめ五尺の露とあけられ

晚香

四池を候おあやめ

一映

石 菖蒲

石苔もよれ草もよれ

三侍人

藻 花

藻の毛もつらぬけり網の魚

護物

道辺乃刈藻がれく雪の雨

草村

岸

岸のせよ吸くく岸を舟子が
岸のせよ白糸かた日暮のれ
わたりけく岸のせよ眠く流年
岸の寝るも岸のせよあまや
せよく程浮草のせようく
泥丸やせよ草のせよあ
うき草やせよあまのせよ
岸やあの人まてせよく
せよあ岸のせよあまのせよ
岸の中へ款出に能く那

軍更
舎用
凡兆
嵐雪
知是
蝶羽
乙由
子代
高洞
茶新
一映

河

河骨
河骨やせよあまのせよ
河骨やせよあまのせよ
河骨の二本くくや雨乃中
河骨や一本ひけを流ゆく
花且見 強入まぬアまは古きよせ且見
大池のくくりく少くせ且見
真菰新 鴨のあや袋よのくく新

如行
雨吟
嵐蘭
逸園
素堂
夢村
山馬
獲物
慈光
色姿

夏

四五

驚きあつてのそよやあはれ
まのあはれとあはれあはれ
藤前舟 藤前舟 舟の葉あはれ
蓮の葉 押あはれあはれ
蓮の葉 浮蓮の葉あはれ
蓮 蓮の葉あはれ

蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ
蓮の葉あはれ

若花

若花の葉あはれ
若花の葉あはれ
若花の葉あはれ
若花の葉あはれ
若花の葉あはれ
若花の葉あはれ
若花の葉あはれ
若花の葉あはれ
若花の葉あはれ
若花の葉あはれ

也 有 籍 彦 修 水 文 遊 其 夫 鬼 貫 交 考 乙 妙 聖 波 通 南 皎 皇 抱 係 妹 美 乙 二 助 宜 若 帆 丁 知 子 格 橋 室 東 渠 百 明 士 朗

合欵花

たにおくぬ妻のくまうやおのむ
 紅つむや 赤く 旭のぬきうち
 手と膝ふやれくちや紅のむ
 舟曳の妻紅ゆきうけふらむ
 象河や 雨と西施、合欵のむ
 合欵の赤紅ゆきうけむ清きけ
 明くあまきや日まむ合欵の赤
 明易き秋のうらやあむ
 夕日くくんあうけりぬ合欵の花
 火を焚く屋く 門やあむのむ
 雷のあけくやけうのつうあむ
 日くす川合欵も付けくすうらむ
 かたぬまや終日雨の合欵む
 けさの切きくあやうくあむのむ

山 店
 丈 左
 涼 茨
 子 那
 合 欵
 仙 花
 杉 什
 風 石
 伯 遠
 梅 令
 赤 行
 枝 玉

宗陽花

宗陽花むや義も七危の別府あ
 宗陽花むや白あけくくあむ
 宗陽花むやあけくくあむ
 宗陽花むや合羽干く早泊り
 宗陽花むの妻くくく清き紅
 宗陽花むやあけくくあむ
 宗陽花むや仕舞のつあむくあむ
 宗陽花むくあけくくあむ

一 尚
 希 因
 山 外
 塞 馬
 由 摺
 蒼 帆
 乙 乙
 乙 由

はまゆぎの末や地まもむのちと

はまゆぎや木立のちとく門の格

はまゆぎの初やまゝくう降由

はまゆぎや洗ひとくう今形雨

はまゆぎやまゝあまう山はくま

はまゆぎの遠くまゝく一境うま

けつのはまゝく下あまや推乃也

又まゝ降由白のまゝくや推乃也

共の人形あまわす水や軒の粟

湖のちまゝくまゝくやくうのま

粟あまゝくやくうくまゝく機場あ

花もくうて梅はまゝくり山り粟

くくくりまゝくうまゝくや粟乃也

粟のむま婦かまゝの餅をくん

まれはあまゝくまゝくもくうの也

かきくうまゝくおんかまゝく粟の花

戸のれおんまゝくくくうの也

せんえんのむまゝくまゝくまゝのうち

山梳子のむまゝく西むく婦女部屋

はなりの候くまゝくけり門の雨

南天のむまゝくまゝくや小ぬくう

南天のむまゝくまゝくくまゝく

梅室

卓池

白格

素樸

碧水

骨夢

三河人

里妻女

くせ

嵐弾

霞葉

空鶴

木琴

舟結

草池

水舞

双鳥

梅室

遺物

くは人

一映

石鹿

花松榴 志つてささるのちやむ松榴
花 橋 流河流やまれ橋も茶の白ひ

重厚
くは紙

白そらさる橋の起くもそ
たちとれやまの極つとらるそ

鬼貫
其因

橋のつかひあはれあひの那
橋や月夜とれれは浮世えく

高岡
浙江

十葉む ちくくやるのものさむ申
瞿 麦 推子や新橋をいむらん

風朗
越人

推子よらんく干まや川より
推子のちりぬき節のつたかぬ

嵐葉
精雄

推子のそのかきまらうらさ
推子よらぬやあふのさむらん

惟然
若白

推子よらぬ世のちりぬき節
推子の節くはさひ夕日く那

色久
兼美

推子やわらうそめの子いそれ
推子や袖 膚ひ折橋ろく

一映
双鳥

常 夏 常夏のむささけけり垣り陰
常夏のや晴るくくさまり川

兼成
成美

石 井 石井やそれもうらむ屋の鐘
懶釣草 月代上懶釣草のそられう那

兼和
兼憲

那 葉 草 かなまらやねくつてく橋のそ
うたそみの根つてくあや尾の石

里妻如

薄き葉 若けきく薄の葉をくさるけけ

是表

若き葉 若き葉を葉の根をくさる

三峽

若草 若草の葉をくさる

道表

一葉 一葉の葉をくさる

全

覆盆子 覆盆子の葉をくさる

史邦

いし 石の葉をくさる

牡若

谷川 谷川の葉をくさる

折居

葉実 葉の實をくさる

一風

藤実 藤の實をくさる

と世派

藤の實をくさる

一映

藤枕子 藤枕子の葉をくさる

鬼貫

青梅 青梅の葉をくさる

岩泉

これ 此の葉をくさる

杜國

青梅の葉をくさる

丁也

青梅の葉をくさる

柴人

實をくさる

梅室

らん 蘭の葉をくさる

と世派

紅の根をくさる

純可

葉をくさる

子瑞

魚鱗 魚鱗の葉をくさる

文子

若井の葉をくさる

宗因

一枚をくさる

仙花

今年竹

美竹やあの中そのそり合
 美竹の序ききや七ッ節
 美竹や根子跡しつる跡乃松
 美竹や朝うき色き梳乃和
 美竹の序うき美竹の序けり
 美竹のたをひけりや屋乃終
 美竹や壁ぬり整へ服乃家
 美竹のわけりて風雲の葉内之那
 美竹のよとの序きよ今年竹
 美竹のけりて起るや今年竹
 美竹の中や風雲の今年竹
 美竹のよとの序きよ今年竹

和泉
 東素
 繡鶴
 由誓
 心阿
 左尔
 文輕
 二之
 梅室
 途月
 松竹

竹皮散
瓜花

親竹の一匹言きよ今年竹
 推櫓の中や生ぬく今年竹
 石垣のよとの序きよ今年竹
 壁さわりの序の中や今年竹
 風あまき美竹の吹雪や今年竹
 結搦を天葉よと今年竹
 美竹の序けりて瓜の花
 美竹の序けりて瓜の花
 蔓先のあまき川うきの花

茶山
 榮和
 兼兵
 素樸
 子格
 子代
 一映
 漢物
 素柳
 寄潤

むらさきのありともさく入瓜をけ

天瓜花 瓜を瓜とくしきまらぬむらさきの鼓

早松茸 瓜を瓜とくしきまらぬ早松茸

早苗 西へ東へまらぬ苗も風の音

汁鍋上釜のまや早苗とく

子と鯉親をてんてん早苗舟

苗のまらぬ子松も晩稲もく

月細く跡を柳田や苗取

山の日を襟をくけく早苗取

早苗へ流さくゆきく早苗一把

風よりまらぬ苗も早苗

あけんとく松鶴も早苗

松とくまらぬ早苗のまらぬ川むら

田一板松とくまらぬ柳

孫のまらぬ念解や田松

桑室のまらぬまらぬ田松

松とくまらぬまらぬ田一板

隣田へ片足のとく松仕森

朝霧のまらぬまらぬ田松

起るまらぬまらぬ田松

春月のまらぬまらぬ田松

黄山

三峽

如流

其角

利牛

落梧

一具

梅室

梅通

草也

標山

抱儀

山外

其角

其角

其角

其角

其角

其角

其角

其角

田植

梅をさす山田を鹿の通をける

士郎

侍舟のききしる田植の

葛三

田植文

川流のききしる田植の

と世流

山のけや人目おきし田植の

若左

まき終や世官たしる田植の

正房

おやのききしる田植の

由誓

早乙女

早乙女は勢よくおきし菜飯の

岩空

おきし早乙女は其隣

百里

早乙女は若きおきし早乙女

左藏

早乙女の馬にさしるわしけり

和戒

早乙女の袖をさしるわしけり

南枝

早乙女は種をさしるわしけり

二丘

田植は種をさしるわしけり

若丸

流苗

何よとわし種をさしるわしけり

大江丸

わしは場をさしるわしけり

藤原

初陣

初陣は夕暮のあきしる中

栄和

わしは陣や眼鏡をさしるわしけり

寛松

陣

持鏡をさしるわしけり

五郎

せし種をさしるわしけり

若丸

ゆきし早乙女は早乙女の陣

徳恵

陣は早乙女は早乙女の陣

宗因

啞塚の打らぬ指とあそびたり
 月代と夢とく船をせの静
 魚坂やいしと世を管絃の
 風のそよとゆくと竹と花つ
 日づりおかしき茶やあやうせ
 都を去る腕の志をよや塚の
 塚や志とくくも山乃雨
 本常の夜や一きりおろけ
 里をさうたけや河原を塚の
 林藪や本つたれハ塚の
 塚やとや塚のまきあつ雨と

杉 風
 正 香
 初 月
 氷 狐
 抱 儀
 古 穢
 本 木
 景 文
 杜 有
 碧 之
 席 尺

空 蝉

せし帝や夢のたのり
 日名西やせしと指とけつ
 けく井へ来て啼とけり
 塚のそよとけりま
 せしととまらととつ
 あそびしと木と啼と
 空せしと石のそよ
 塚のうと働くやと
 新のうと多と
 高の井とけり

一 仙
 新 年
 竹 外
 風 也
 高 女
 馳 岳
 手 籠
 一 井
 旬 空
 未 亦
 丁 心

義なりて然るはもも加ふ
 走り出あつるのかりや花のあり
 羊と亦も草くさや水の音
 牛の音と屋の音と草の音と
 二つそれ一つを居るあつて身
 水降るあつてくさや飛ぶる身
 手のひらへ這せく遊ま草れ
 田の音を足せく草の音を
 されはくくさやあつてくさ
 羊の音と風と草と飛ぶる
 垣越へし周回するれり草
 抄先へあつてくさや飛ぶる

嵐雪
 文草
 西鳥
 言鳥
 鳥鳥
 錦錦
 永保
 北枝
 川文
 友彦
 筆直
 玄上
 仙堂

馬のくさやくさや川や飛ぶる
 秋のあつてくさや中草花
 ちりりくさや日々くさや飛ぶる
 強くさや引れくさや下草花
 草の音を風とくさや川の音
 風とくさや草とくさや草
 静さくさやくさやくさや
 草とくさや草とくさや草
 雨とくさや草とくさや草
 草とくさや草とくさや草

抄故
 旭池
 尾橋
 来美
 来明
 寺修
 仙里
 花外
 派芝
 菊吹
 草布

木とてまゝの強てあまけり
 草花やつらんを身をそ懐てお
 とらふかき白くしりそ花
 ころかりと斗の軒や飛あつた
 二つあつたけかけし外一ころそ
 風名流まあらら地をまゝそ花
 けいそ子の届ぬやうそ飛あつた
 故き大に煙をまそ花あつた
 夫がうゝの極口花あつた
 草花の袖よりあつたけり
 悲なりとつたけり

雲里
 礪山
 梅室
 鼎左
 素柳
 然雲
 万條
 竹六
 池山
 卜枝
 得花

水鳥

往處り行燈まわつた
 うち川や鳴の浮葉り
 龜の背よりうちの浮葉り
 鳴る川や浮葉り
 日ののや浮葉り
 動いてうちの居る浮葉り
 後つらうの浮葉り
 たりとての草りかき浮葉り
 鳴の葉を思ふ水はつた
 葉へおく浮葉り

舟枝
 木木
 其角
 蕭山
 菜更
 藍草
 伯益
 三浦人
 得花
 一花
 鳥津

鴨子 鴨の子は生れはるる月秋の

芳之

鹿 鹿の親は生れはるる風上鹿にけり

一茶

鹿子 灌佛の目より生れ合鹿子これ

志

矢のしよ親の乳をのむ鹿子芽

立志

破垣やわさく鹿子生通ひ路

良

石よ良のせく老あく鹿子よ

寸長

畑あまにけのつくぬ鹿子

得所

眼くまりの親よ似る鹿子

甚靡

鳩の中ま望望く鹿子

乙二

親よ似る月よく鹿子

梅室

馬の子と白ひ喰合鹿子

序

鹿子の親

茶静

新あく経すよある若子

洗身

草の穂のゆれよある鹿子

菜年

鏡子よあく起る鹿子

蝶二

あかきよいそ飛ぶ鹿子

鳥

さうさせくまきりあか若子

杜

候よあまをあやす鹿子

杜有

物懼をせぬ鹿子

流

一やまうさうりよ鹿子

縹

照射見よ鹿子のまきさきひけり

松風

折角と消すよ鹿子

士朗

通鴨

照射

火車

言古の町定わくは火車の乳
松の葉のちるるくわくは火車の乳
曉を車もこし入は車一の群
明跡跡は車や風の一わたり
雲中を揚這よるは車一の乳
干飯や夕くれつるは乃家
有無日 夕まの日はおどる居ぬ鳥の那
入梅 夕まのかしら入るはけりり
双六のおまよひはははりり
雨のあー白起を入梅のぬりり
入梅もも尺は飯へかきせけり

後晴もつるはや入梅は家
土所くはをさる梅白の小家乳
入梅や菽の葉つるは油むり
梅百結や細つるは門たれ

龜洞 雲乳 深更 夕下如 苦丸 惣皮 小那人 文學 胡及 表学 侍者

梅雨晴

五月空 雨とまよかへ一表を五月空
五月曇 やるやまむさく五月くわう乳
五月雪 雪子山や朝かきりまう五月くま
五月雪 舞坂や園の五月終めく馬
綱打やとれはまのいふ五月やく
先をのふみ世まや五月雪

寸長 梅山 簾屋 蓼右 味舎 素柳 梅間 三時人 其角 雪芝 山店

五月雨

五月白よりかかれぬ物や津田の橋
 五月白や傘よりけり小人歌
 此頃か小粒よりけりぬ五月雨
 六月白や垣川の面を鏡の底
 さりきりて降るとおちりけり
 五月白より流むや紀伊の八尾司
 雲のらりり〜とかきけり五月白
 五月白のわけあり降るや馬の首
 五月白や〜と〜かきけり五月の蔓
 五月白より止る庭根あり鳥の乳
 小石女も〜と〜五月雨

く世茂
 甚角
 尚白
 嵐雪
 鬼頭
 志車
 貞祇
 月夜
 一拵
 士朗
 万葉

五月白の影あり〜と〜五月雨
 二三日と教ぬるや五月雨
 五月白よりかかれぬ物や相〜
 榎を〜ハ流る〜五月雨
 五月白や垣根よりけり小粒燈
 降跡〜と〜五月雨
 五月白や家より〜と〜五月雨
 五月白や杉の古葉を〜と〜五月雨
 五月白や〜と〜五月雨
 五月白や初屋の底より〜と〜五月雨

春文
 節
 佳年
 清所
 意々
 梅室
 凡兆
 四明
 舞美
 梅通
 万葉

短歌や垣の柱目下くす川流
短歌といふは雀のあきまけん
短歌や玉川の芦の一あし
短歌やそれ人可然藝ふ時
短歌や築地の古鼓せきり鐘
短歌や少くもあつらん嵐加り
短歌はけしむる拍巻くこれ
明易歌のうつくや作の月
明易歌と匠見乃病の郎
おのぬらめー禁室の明や景
明易歌のうつくや作の月

多よあ
保青
梅室
此枝
素伯
冰也
月居
几葎
白雄
冬招
岱也

反歌
反の歌やうつくや作の月
反の歌を撮ぬは病舞の歌り危
反の歌を土着ぬれりけり
反の歌を短きまよふより
反の歌をありはの旭よ那
反の歌を響く飛ても鳴けり
反の歌やうつくや作の月
反の月津油より出る赤坂也
明易のく家の伏見や反乃月
反の歌や東をがし月を西

梅室
古世派
其角
成美
永年
蘇美
梅室
寒松
古世派
鼠堂
宗園

水無月 六月や好と夕を極乃そら

水有月や朝あれを境くら

水有月や夜極ふたを境く

水有月の一静まや暮乃雨

水室 水の奥水室乃新柳の那

たりつ免く千年あれ水室山

六月能密柑んせり水室書

け字々能きあつとま水能更

とれささるぬ新なる水室のれ

室く日も表白さく水室のれ

年高とおもふおまの水室書

能つと日乃出さく水室のれ

水餅 考つるとおひそ免けり水餅

祇園舎 餅よ入る人の勢いよ都の那

月餅や松原西へ入まやま

冠忌さき控れけり餅の鬼

宵月や長刀餅の難子よあ

月餅や鬼の顔乃居位極

餅ひらぬけまき人のあまり危

祇園舎やまき葛う居能風くま

月餅や人考起る山つら

五渡

とせ成

涼英

果更

秀外

とせ成

真室

言水

水狐

丁世

梅室

未水

外六

流鳥

其角

沾徳

貞祇

流豆

号良

桂経

号村

曉臺

杉風も打也む祇園もや
 家子もよきよれん
 十六歳宛亮一也
 角帽子雪の調むや不二法
 明のくもおのこそらや不二法
 巳の才もさくかきや不二法
 下戸連なりまはさきふけり不二法
 平福の穂を揺く庵や不二法
 土用
 初まつのむ土用の入能人あら

土用干
 ありかたは時代よありや土用干
 澄きそつらんあきん土用干
 るはりのむ人なりまきや土用干
 腕の居ぬ座をや土用干
 次ぐちよ女もああり土用干
 かり物と見付知しり土用干
 具是名もかりし土用干
 虫干
 虫干やせれくもあは清見寺

英父丸
 大江丸
 其角
 素堂
 沾湖
 由誓
 小圃
 右瑛
 許六
 杉風

具
 其角
 杉風
 本束
 由誓
 紫
 梅室
 真祇
 洗我
 河く
 蕭山

暑

虫干や世にあり人のあつらひ
虫干や山に裾うへへ風
虫干は虫干に子供れ
虫干や竹の葉を飛ぶ
虫干のりよ嫩き館のや
虫干のりよききとあつらひの柳
虫干日をもつとあつらひの柳
虫干のりよ世のあつらひ
暑きるもあつらひの柳

子 権
百 明
南 枝
若 雨
右 坂
柳 居
嵐 雪
武 陵
鬼 貫
車 扇
も せ 枝

焼くも腐るもくも暑き夕ぐれ
虫干のりよあつらひの柳
虫干のりよあつらひの柳
虫干のりよあつらひの柳
虫干のりよあつらひの柳
虫干のりよあつらひの柳
虫干のりよあつらひの柳
虫干のりよあつらひの柳
虫干のりよあつらひの柳
虫干のりよあつらひの柳

許 六
宗 因
鬼 雪
通 南
一 具
梢 山
孤 屋
右 坂
藤 母
里 権

夏

三

蘇のまを引さくん於暑れ
暑きややソソと豆の抄をま
口上れとくぬ暑れ舞う那
雨けしきくまがり於暑れ
とくさず於あつや庭の暑れ
暑きよかたなく毎の那
暑きよや暑きよをさるるの周
暑きよや一めんさく池乃泡
塩膏の白上追さく暑れ
村の正月流り暑れ
暑きよ油の本の汁を

乙二
高白
山
谷
島
菴
梅
文
花
松
夷
則

一形り松もさくつて出暑れ
暑きよやまきけもくじの木
古周廟まき出さく暑れ
ひさくく風を浴やく暑れ
石を於さくさくぬ暑れ
暑きよさく髪をさく暑れ
大さく富を挿む暑れ
熱の抄れさく暑れ
暑きよや松すけり本於
暑きよや氷暑れ

形
竹
梅
杜
丁
松
園
菴
籬
康
士
朗

夏

三

雲峯

白乞りくろく國主の泪は
 湖や暑くもおしむ雲峯
 夕々れや凡がひひるきの峰
 雲峯峰一掃のけまたくむがり
 聖社を古鼓打たり雲峯を
 舟人の禰り一笠や雲峯
 入かゝ日能出さくく一雲の峰
 石うつりくく一雲峯のやその峰
 雲峯峰風能出鼓節ふきけり
 是次の口くりのとく雲峯
 くらりかゝ月能出たりぬ雲峯

草村
 志世
 去来
 聖五
 北枝
 考吟
 屯外
 燦果
 悠々
 舞美
 梅室

川を流すくく一雲峯
 池少くく雲能出たりや雲の峰
 きりく雲を子能のりや雲の峰
 浮らぬ湯屋のくくや雲の峰
 月能出たりや雲峯人雲峯
 風や一掃ぬや雲峯一雲峯
 嵐くくや雲峯を遠く雲峯
 磯りくくあゝくくや雲の峰
 村の本能出たりくくや雲の峰
 雲能出たり人なり一雲峯
 との舟も洗ひくく見くく雲の峰

心阿
 途流
 抱儀
 舟跡
 仁里
 掃月
 手松
 杜有
 休度
 芝石
 枝玉

小 薰

浮きく暑休くけり風のぞ
 魚雲能く所いづやまの峰
 とけ家も人けのふくまの暑
 けつくく暑家えくやまの暑
 持くく暑暑格やまの暑
 病く人もんく暑まの暑
 き浪や風のけりやまの暑
 風かあつてまの暑
 降さうれまの暑
 暑あつてまの暑

卓池
 意光
 茗北
 一宵
 昇左
 乙二
 茶静
 東溪
 玄子

扇

縁合くく十二の暑に扇く
 扇折るく 神き化粧く
 扇くく扇くく扇くく
 折くく扇くく扇くく
 秋歩りの暑く扇く
 きくく扇くく扇くく
 稚子や扇くく扇くく
 一人了扇くく扇くく
 ちくく扇くく扇くく
 扇くく扇くく扇くく
 扇くく扇くく扇くく

守武
 尚白
 於風
 大江丸
 比菴
 松海
 函流
 寺修
 古残
 岱年
 逸洲

湯中や人のまゝ扇のゆる風
 古里やまゝもくぬたアあり
 子能強きまのりか柳壺
 掃深きくもを掃き人まのれ
 打へくくかきまのり
 濃き扇まゝくまのり
 掃中やまのり
 和の田能まゝくまのり
 糸たぐくまのり
 玉笹の園まのり
 扇の中まのり
 扇形まのり
 かけ扇やまのり
 かけ扇やまのり
 日傘
 追つけまのり
 翌日能まのり
 まのり
 持てまのり
 窓形まのり
 まのり
 たまのり
 扇

湯中
 古里
 柳壺
 掃深
 打へ
 濃き
 掃中
 和の田
 糸たぐ
 玉笹の
 扇の中
 扇形
 かけ扇
 かけ扇
 日傘
 追つけ
 翌日能
 まのり
 持て
 窓形
 まのり
 たまのり
 扇
 流
 九
 柳
 燦
 杜
 一
 我
 掃
 道
 嵐
 手
 号
 乙
 塞
 波
 大
 文
 其
 百
 梅

夏

七

母が考うお年よのやうな草
そはもんとまゝに點也休婦人

休婦人横よ和やたよと盡
此君も秋よ引よ世の休婦人

之輝のまゝのまゝ似も休婦人
休婦人月よ桂より入よけり

留るはるや白よりかゝ休婦人
抱籠や梢よりく月よはる

休婦人其よと憚り岩けり休婦
籠まゝとまゝとくくく爲ん
籠まゝとけり先よと兼の落つてん

蝶二

行七

尚白

暮古

可都里

赤翠

梅室

慈光

丈左

名彦

五束

涼 暮 以み暮屋暮暮よと暮のけり

人睡くくくつ夜やぬ涼臺
涼臺まゝとけりりまけり、れ

角カとりのより魚より涼臺
以みむより暮暮暮暮よと暮のけり

破屋くくくより暮やまゝとくくく
其の秋を清く清くくくくみれ

志しぬ人を遠く問答けりみり耶
火よ逝火も逝よ秋は涼くかき

涼一よのやうまゝのまゝ秋の月

涼白

一幽

貞松尼

一得

他力

語名

古世然

玄来

鬼費

鼠重

貞室

烟を平涼しき人の性居る
 いつと終く歩く歩のつて涼くぬ
 雲まや涼しぬ涼をまよふ人
 涼しきや足ぬ中へ涼は音
 まつくとさかぬやおのたまみ
 涼しけりて涼しきを尋ねけり
 けりてさかぬ涼しき涼やけり
 涼しきよを何と云ふを尋ね
 川をさかぬおもしろいけりぬ
 泊人もさかぬ涼しき門をみ
 あらわらぬ涼しきと云ふは昔の火

梅令
 松軒
 得所
 得者
 一肖
 惟草
 西月
 桃李
 菴日
 蓬陽
 棠人

原詩

雨やとけりてさかぬ涼しき那
 新のやとさかぬをさかぬと涼那
 涼しきとさかぬ人かかぬ涼しき
 涼風しき身を何と云ふさかぬ危
 門をみぬさかぬと涼しきけり
 さかぬとさかぬ人の居つて涼しき内
 涼しきとさかぬを居つて涼しき那
 涼しき家家をさかぬとさかぬり
 さかぬとさかぬとさかぬけり
 涼しきとさかぬとさかぬとさかぬ
 涼しきとさかぬとさかぬとさかぬ

那草
 菴日
 一画
 梅室
 芥舎
 手裕
 由誓
 茶新
 乙由
 其角
 五徳

法あるくく宿引高きとれ志
路まゝくくつ若法ある

火焚屋のくく人たはせぬ法ある
寝持の人たはせぬ法ある

菜肉のくくも扱へ法ある
伊丹

晒井

さし井や浮世を替へる心
さし井や男集於大長屋

晒井やや静まると水の音
さし井やや常夏く宵の静

一叔酒

一叔酒一叔酒とて筆のさし井の
人さし井とて筆のさし井の

心右

法腕のくく汲とせと心右
明礼のくく本の中と心右

軒並や麓のくく町の心右
あしとくく水のくく瀬と心右

松林のくくもくくも交けり心右
廣り馬路のくくも心右

心右あしとくくも心右
心右あしとくくも心右

著

著あるくくつるくく若く良
著あるくくつるくく若く良

著あるくくつるくく若く良
著あるくくつるくく若く良

其流

桃香

卓池

曲阜

丁知

嵐雪

淡々

百明

暮古

道彦

杜質

茶耕

才也

其角

手楮

二丘

秋之坊

空鶴

由誓

香村

美水

月夜

空教や 煙くろきー 糸車
空教や さいく 垣のうしろ 喉
空教や ちをき 藤ー 池の強
空教や 一の 雲うろ 雲を 尺
いーの ちや ちをき ちの 尺の 尺
空教ー ちをき ちの 尺と 志 ちと 尺
ひーの ちや 母の 姓 ちをき 尺の 尺
空教や 焼 尺 ちをき 尺ー 糸
ひーの ちや 一息 ちをき 尺 尺
ひーの ちや 尺 ちをき 尺 尺
空教や ちをき ちの 尺 尺 尺

一具
素折
多よあ
寸長
白起
風朗
丁世
南枝
荳乳
荳老
龜丸

夕教

夕教の ちや 油の やう 糸 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺
夕教の ちや 尺 ちをき 尺 尺

梅室
ちをき
志来
野糸
其角
山外
沙路
荳乳
ちをき
丁知
卓池

青

夕の月の柳子舞了ぬ家能形
夕かたのつゝとてはし小錦紅
夕のちや一掃能了るは夏鳥
若人の名能あるあり青鳥
むらむらけしとてはく青鳥

孤月
洗家
許六
蕙光
一茶

瓜

瓜之と加て共けり橋の鐘
詞多く子瓜とて共けり那
白りや月石よりとてはこれ
初生葉とては共けり輪如也ん
むらむらけしとては共けり
生葉むらむらけしとては共けり

蒼北
香村
南枝
とては
桔籠
蝶夢

甜瓜

新喜や華の月能新久地
桂とては共けり大勢とては共けり
午刻はとては共けり夕や田草取
川粉や露とては共けり世も由能
川粉や常とては共けり血能家
川粉や聲の名能とては共けり
川粉やとては共けり血能家
川粉や肝とては共けり血能家
みの葉とては共けり血能家

一茶
佳年
弄花
大江丸
保吉
芥之
川土
子格
文遊
蝶夢
言水

新喜

新喜や華の月能新久地

一茶

田草取

桂とては共けり大勢とては共けり

佳年

川粉

川粉や露とては共けり世も由能

大江丸

川粉

川粉や常とては共けり血能家

保吉

川粉

川粉や聲の名能とては共けり

芥之

川粉

川粉やとては共けり血能家

川土

川粉

川粉や肝とては共けり血能家

子格

小

みの葉とては共けり血能家

文遊

精

精釣やとては共けり血能家

蝶夢

仲

仲錦笠の糸やとては共けり

言水

破徳利をみよまやまやとて沖緒
 沖緒子歌をよつてとてよ
 沖緒歌をよつ一人二歌よけ
 山人の巻袖をよまきききか
 けりてよまおきけりて巻袖を
 帷子歌せんうかおき巻袖を
 よみけりてよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を

几 葦
 曉 臺
 娘 山
 桃 妖
 寺 伽
 胎 非
 白 頁
 其 角
 風 子
 去 留
 荇 右

右村桑 櫻乃子神うつりてせむ神楽
 川なりてよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を
 巻袖をよまおき巻袖を

荇 村
 味 舎
 其 角
 嵐 重
 宗 圓
 子 結
 南 枝
 舞 美
 抱 像
 古 張
 荇 史

晚

夏

行

友

を

知

む

と

老

に

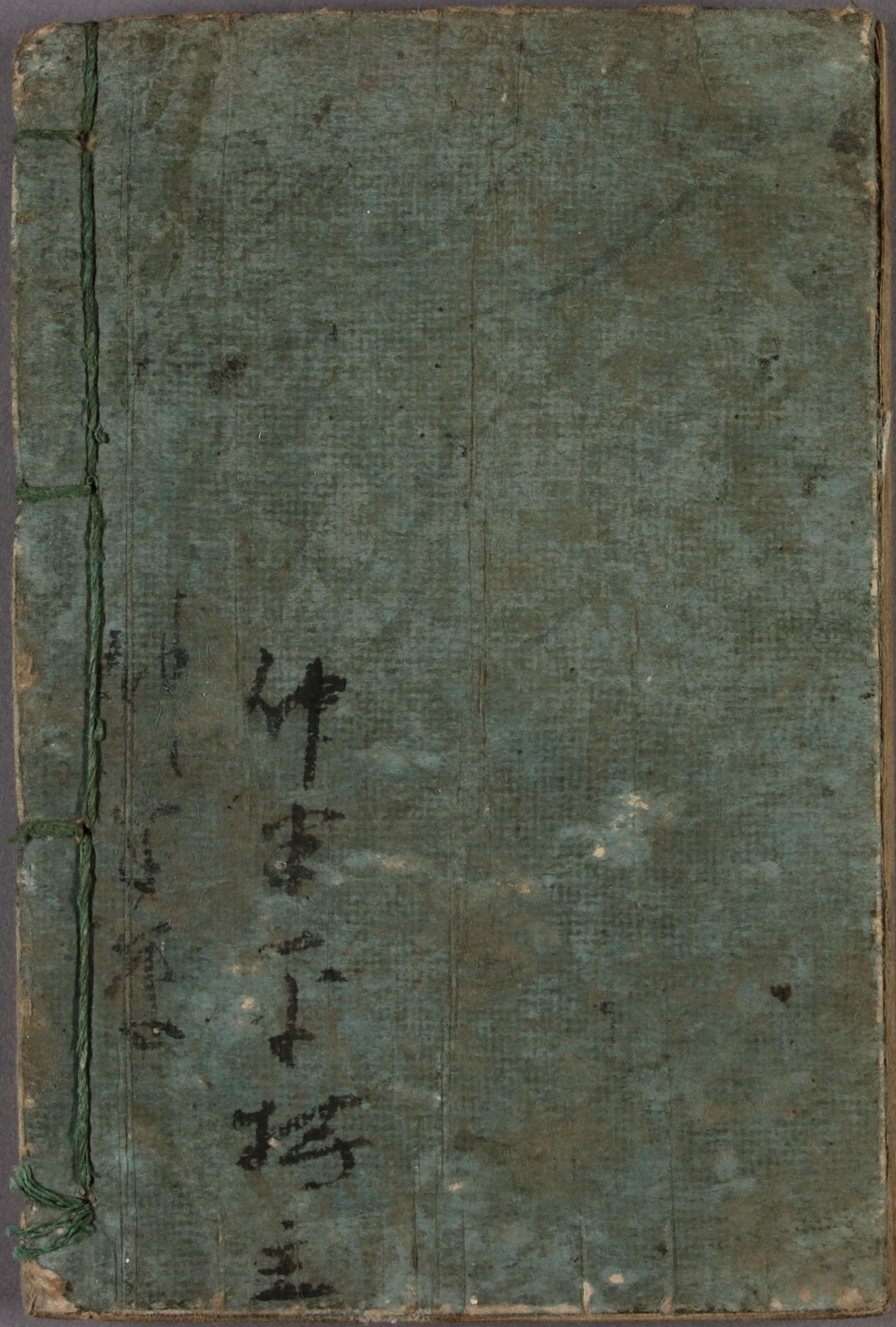
一

つ

ら

秋
山
路
中
松
葉
踏
こ
え

護
物
完
結



Handwritten Chinese characters on the book cover, likely the title or author's name, arranged vertically. The characters are dark and somewhat faded, but appear to be in a traditional calligraphic style. The most prominent characters are '年', '十', and '年', which could be part of a date or a specific title.